第3期第5回川崎市多文化共生社会推進協議会 会議録（摘録）

会議名	第3期第5回川崎市多文化共生社会推進協議会
日 時	令和7（2025）年1月24日（金） 15時15分～17時15分
場 所	本庁舎21階市民文化局会議室
出席した者の氏名	委員 (1) 大西 楠 テア 委員 (2) 小ヶ谷 千穂 委員 (3) 孔 敏淑 委員 (4) 本田 量久委員
	事務局 市民文化局市民生活部多文化共生推進課 (1) 菅原課長 (2) 吉留担当課長 (3) 三田村課長補佐 (4) 松長根課長補佐 (5) 緒方職員 (6) 高橋専門調査員
	ヒアリング対象課 健康福祉局地域包括ケア推進室 久保担当課長、手塚担当係長 健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課 中村課長、平野課長補佐 健康福祉局長寿社会部高齢者在宅サービス課 芦川課長 健康福祉局長寿社会部介護保険課 井上係長、泉主任、草野職員 健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課 塚田課長、角野係長 多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）木村氏、湯浅氏
欠席した者の氏名	南 昭子 委員
議事及び公開・非公開の別	<p>議題（公開）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会（公開） 2 本日の日程、資料確認（公開） 3 個別課題の検証（公開） 指針：施策推進の基本方向1 行政サービスの充実 (5) 福祉 【ヒアリング】 健康福祉局地域包括ケア推進室 健康福祉局長寿社会部高齢者事業推進課 健康福祉局長寿社会部高齢者在宅サービス課 健康福祉局長寿社会部介護保険課 健康福祉局総合リハビリテーション推進センター企画・連携推進課 多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK） 4 次回以降の審議について（公開） 5 その他（公開） 6 閉会（公開）
傍聴者	0名

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座席表 ・ 委員名簿 ・ 資料1 事前質問への回答 ・ 資料2 川崎市多文化共生社会推進協議会（第3期）審議計画（案） ・ 参考資料1 外国人高齢者について ・ 参考資料2 TKNK 質問への回答参考資料
------	---

1 開会

○菅原課長（会議の成立、会議の公開について説明）

2 本日の日程、資料確認

○三田村課長補佐（日程説明、資料確認）

3 個別課題の検証

○小ヶ谷会長 本日の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○三田村課長補佐 資料1を使いながら、所管ごとに事前質問に対する回答をまとめて説明していただきたい。事前質問に関しては、高齢者の事業のなかで外国人高齢者に特化した事業はあまりないため、事務局で回答の担当課として割り振ったものの、所管課として回答できないものもあった。そのため、設問の中には回答が空欄のものもあるが、まず各所管が取組の現状を説明し、空欄の部分も含めて全体で議論をしながら委員から質問や意見を出していただきたい。また、市の所管課で回答できない設問については現場で活動されている多文化高齢社会ネットかながわ（TKNK）の木村様、湯浅様にお答えいただきたい。

また、個別の回答に移る前に、参考資料1として外国人高齢者の市内の現状についてのデータをまとめたので、こちらを先に説明させていただく。

（参考資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 まだ外国人高齢者の数は少ないが、単身高齢者の割合は日本人よりも多いことは特徴的だと思う。それでは、資料1の事前質問の回答に移るので、設問1の高齢者事業推進課からお願いしたい。

○平野課長補佐（資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 続いて地域包括ケア推進室に回答をお願いします。

○手塚係長（資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 続いて総合リハビリテーション推進センターの企画・連携推進課に回答をお願いします。

○塚田課長（資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 続いて介護保険課に回答をお願いします。

○井上係長（資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 続いて高齢者在宅サービス課に回答をお願いします。

○芦川課長（資料1に基づき説明）

○小ヶ谷会長 それでは次に多文化高齢社会ネットかながわの回答をお願いします。

- TKNK木村氏、湯浅氏 (資料1に基づき説明)
- 小ヶ谷会長 今までの説明に対し、委員から質問はあるか。
- 孔委員 来週「外国人の利用者支援に役立つ、多文化理解と伝わりやすい日本語」という研修を行うとのことだが、これは、今までも実施していたのか。それとも今回が初めてか。
- 塚田課長 今回初めて多文化高齢社会ネットかながわに依頼をして実施するものである。
- 孔委員 こういう研修は1度で終わると意味がないので、今回をきっかけに定期的に開催してほしい。
- 本田委員 福祉サービスにアクセスするためには情報が重要だが、高齢者は情報弱者になりやすい。行政情報の発信はインターネットが中心だと思うが、高齢者にうまく拡散し届ける方法はあるのか。
- TKNK木村氏 かながわ国際交流財団では社会保障をテーマによく研修を行っている。普段なかなか人は集められないが、フィリピン人が集まる教会で実施した時はとても多くの人 came。質疑応答もとても多かった。こうした方法を使うと情報が届く可能性があると思う。
- 本田委員 教会だと週に1回行くなど、具体的な場所があるということは重要。情報発信と共に居場所や人が集まる場所を活用していく。図書館も、様々な地域の情報が蓄積されていて、偶然手に取ったパンフレットが有益だったりする。図書館は交流しなくても一人でも安心できる場所でそれを確保することも重要である。
- 大西委員 多文化に関する研修は進めた方がいいが、今回の研修は受講料を払って行うものということなので、できれば無料でできるとよい。少なくとも、研修は休暇を取っていくのではなく業務として参加させるように指導できるとよい。情報提供や居場所づくりなどについては、行政も行っているのに、なぜ現場に届かないのか。何が障壁になっているのかが知りたい。
- 小ヶ谷会長 介護保険課では〈やさしい日本語〉や多言語のパンフレットを作成しているが、届いていないといった感触はあるのか。
- 井上係長 これまでも外国語版のパンフレットは作成していたが、〈やさしい日本語〉版のパンフレットは、今年度初めて作成した。〈やさしい日本語〉にすると内容が絞られてしまうので、これで外国人市民の方に本当に伝わるのかなどはこれからも検証していく必要があると考えている。
- 小ヶ谷会長 そうなると、現場からのフィードバックが大切になるということか。
- 井上係長 〈やさしい日本語〉版はホームページに掲載しているものと、国際交流センターに印刷した紙版を置いてあるが、フィードバックの手法や配布する箇所を増やすことも検討していきたい。
- 大西委員 川崎市としては様々な多文化施策が実施されており、外国人市民の方も区役所に来れば福祉につながるだろうと思うのだが、手厚いサービスがあってもなぜうまくつなげられないのか、来庁しないからなのかということが気になる。
- 本田委員 外国籍の単身高齢者が多いというデータがあったが、単身で家に引きこもっている方も多いと推測できる。どうやったら外に出ているのが重要である。まちづくりとして外に出るようにとフリーマーケットを開いたりする。
- 小ヶ谷会長 しかし、介護などを受けている高齢者だとすると身体的に外出が難しいこともある。私からの質問だが、本日ここでTKNKの方から教えていただいた話は、介護従事者が聞けば大変有用で、サービスの向上にもつながると思う。こうした話を共有し、ネットワークになる場が今後、研修を通じて生まれていくのか。

- TKNK湯浅氏 介護従事者が個別の困っていることを投げかけてネットワークを作ることは難しい。例えば地域包括支援センターで勉強会をして 事業者が集まる場を作り、お互いの悩み事を分かち合うピアカウンセリングができれば職場の定着率も上がる。コミュニケーションが難しいと感じていた外国人高齢者に対して、ノウハウが共有されて提供するサービスの質が向上するといったものがあれば企画してもらいたい。それは、我々のような単体の民間事業所ではできない。今はどこの事業所もかつかつでやっているの、民間だけでネットワークを作る厳しいと思う。行政だけでもできないので、お互いに連携していけるとよい。
- 中村課長 当課では職能団体の方たちと行政からのお願いなどを伝えるための会議を定期的に開催しているため、できないことはないかと思う。
- 本田委員 介護職には限らないが、外国籍の方が働きやすい環境を作らないと市内で働いてもらえなくなる。介護職だけでなく働く外国人が集まって情報交換できる場も必要なのではないか。
- 小ヶ谷会長 介護通訳について聞きたい。医療通訳に比べて介護通訳は整備が進んでいないというような指摘があったが、通訳の状況やタブレットやアプリによる言語支援などについて補足はあるか。
- TKNK木村氏 行政の体制ではなく、M I Cかながわの中で、医療通訳が整備されているのに対して介護通訳が普及していないということを説明した。
- 小ヶ谷会長 介護通訳という言葉はあまり耳慣れない。
- 孔委員 M I Cかながわでは、医療通訳以外はすべて一般通訳として私もやっている。病院以外に派遣されると一般通訳なので、自宅療養しているところに行く際は一般通訳になる。行ってみると、当初聞いていた話と違っていたり、通訳以外に買い物を頼まれたりというようなこともあり、整理が必要かもしれない。
- 中村課長 行政としては、地域包括支援センターのほうで、ケアマネージャーがケアプラン作成の際にコミュニケーションで困っているといった話を聞けていない。事業所も数多くあるので、まとまったの状況が把握できていない。そうした把握が必要なのではないかと思う。
- 孔委員 外国人市民の方からお墓の問題などが出てくることはないか。火葬ではなく、土葬の文化を持つ人もいるので、そうした人がお墓を購入したいといった話はないか。
- TKNK湯浅氏 20年ほど前に比べると選択肢が広がってきていると感じる。少し前までは、なくなったら母国のお墓に入るということで、亡くなるまでは日本にいるか、最期を母国に帰って迎えるのかなどの悩みがあった。次第に母国のお墓という話がなくなってきて、日本でお墓をどうするのかという話が出てきている。日本に家族親族がいれば日本でお墓をということになるが、近頃は散骨も増えている。相談が寄せられたときは、様々な選択肢を示して本人の意思を尊重した最期を迎えられるようになってきている。
- 小ヶ谷会長 それではヒアリングはこれで終了する。ありがとうございました。

(TKNK・健康福祉局 退室)

- 小ヶ谷会長 今のヒアリングを受けてのまとめをしていく。
- 孔委員 高齢者の問題については、孤立など、外国人も日本人も同じだと感じた。足腰が弱ってくると自分がこれまでつながっていた同国人のコミュニティなどがあっても出かけられないので、住んでいる地域でつながりを持つことが大切だと思った。

- 本田委員 健康寿命を延ばすためには、元気なうちに外出する習慣を持っていることが重要になる。今年度実施された外国人市民意識実態調査によると、川崎市内には文化施設がいくつもあ
るが、そこへ行ったことがないという人も多いということが統計データに表れていた。自
分たちのまちの魅力を知って外に出るということも重要ではないか。
- 大西委員 市では情報発信や多言語支援をしているのに、実際の利用者やケアに従事している人達
は文化や言葉の壁で苦勞しているのはどうしてか、疑問である。翻訳アプリやテレビ電話
などもある。どうして利用されないのか、知らないのか、忙しすぎるからなのか、多文化
共生というより福祉行政の問題なのか。
- 小ヶ谷会長 TKNKの方と健康福祉局の話している言葉の意味や水準が異なっていると感じた。現
場で課題として認識している言語や文化の違いということと、行政で話している多言語や
〈やさしい日本語〉の取組は質的に違うのではないかと思った。TKNKの方の話という
のは、ある意味最後は言語ではないという話にもなっていたように感じた。行政のシステ
ムで現場の人の課題に対応するのはとても難しいことであり、できるとしたら現場の方向
への研修ではないか。また、健康福祉局から見ると、各所管では外国人市民からの相談は
多くない、介護サービスの利用者も少ないということで、市の全体から見たときの外国人
高齢者の取組についてはまだ課題感が高くない。そのような中で来週行われる介護従事者
向けの多文化理解の講座は、どういった経緯で開催することになったのか。
- 高橋専門調査員 第14期外国人市民代表者会議から介護従事者向けに多文化理解の研修が提言され、所
管課にTKNKを紹介したところ、今回の研修が実現した。
- 小ヶ谷会長 つまり多文化共生課がつないだことで実現した。このような課がないと、外国人高齢者
の単身世帯の多さなどのデータも可視化されないので、このヒアリングを通じて多文化共
生推進課の重要性を感じた。
- 高橋専門調査員 今、外国人市民意識実態調査の資料を作成しているのだが外国人高齢者のデータをみると、75歳以上の後期高齢者では、最も多いのは韓国の729人だが、中国が92人、ベ
トナムも60人、フィリピンが12人、台湾が27人、ヨーロッパが16人、アメリカが
32人など、在日韓国・朝鮮人の方だけではなく、既に高齢者も多様化している。
- 小ヶ谷会長 多くの課に来ていただき認識に違いがあるということが分かったのはよかった。
- 大西委員 グッドプラクティスになるような事例があれば、行政も展開しやすい。行政ができるこ
とはわかりやすいモデルを作り、共有して行動変容を促すということなのではないか。
- 小ヶ谷会長 行政のセクション間のつながりが重要となる。

4 次回以降の審議について

- 小ヶ谷会長 では、次回以降の審議について、事務局から説明をお願いします。
- 三田村課長補佐 (資料2に基づいて説明)
- 小ヶ谷会長 報告書の作成については、中野会長は報告書の案を一人で作成していたが、その前の宮
島先生ときは委員が分担執筆していた。今回は学識の3人で分担執筆をし、孔委員には
全体を見ていただくという形でいいかと思っている。
- 本田委員 分量としてはどのくらいになるか。
- 高橋専門調査員 ヒアリングした概要を摘録などからまとめ、最期にコメントを1ページ程度という形式
になっている。
- 小ヶ谷会長 では、今期の報告書は学識の委員3人で分担執筆するということによいか。
- 本田委員 了解した。個人的には図書館の項目を希望する。

- 大西委員 私は保健医療か、高齢者かと思う。
- 小ヶ谷会長 検証のテーマは4つあり、あとは全体の総括もある。4月の協議会で最終的な分担を決定したい。それでは今後の審議計画については資料2のとおりで修正はなし、報告書は本田委員、大西委員と私で分担執筆するということが決定した。

5 その他

- 小ヶ谷会長 今回は地域日本語教育の推進に関する部会は開かれていないということでその報告はないと聞いているが、他に事務局から報告などあるか。
- 三田村課長補佐 新年度の協議会の日程調整を今後していくので、メールでの返信をお願いしたい。
- 小ヶ谷会長 ほかに何かあるか。無ければこれで第5回多文化共生社会推進協議会を閉会する。

6 閉会

以上